

令和6年度 部活動のあり方についてのアンケート 結果概要

令和7年3月14日
教育推進課

1 調査概要

(1) 調査目的

本町の中学校教職員、生徒及び保護者(1・2年生)の部活動に係る意識や実態等を把握し、今後の部活動のあり方を検討する

(2) 調査実施時期

令和6年11月

(3) 回答数

ア 教職員 70

イ 生徒 547

ウ 保護者 245

2 結果概要及び分析

(1) 生徒の部活動に関する意識等

部活動に参加している目的の上位は「友だちと楽しく活動するため」「体力や技術を向上させるため」であり、この二つの回答を合わせると全体の約50%となる(生徒質問4)。

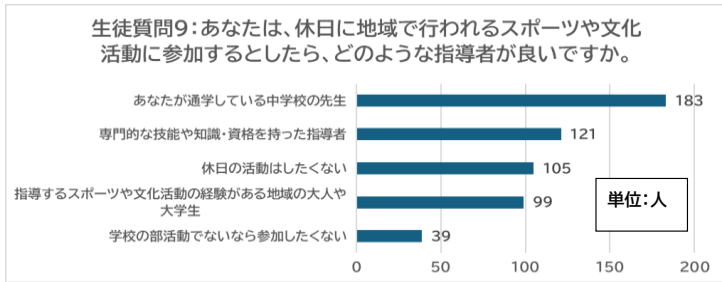
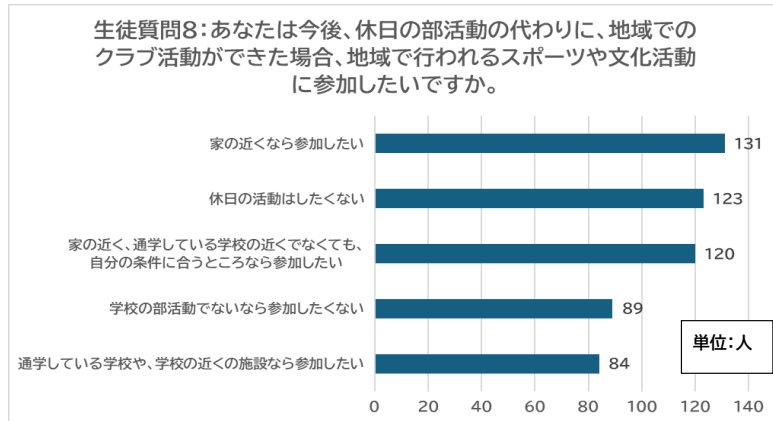
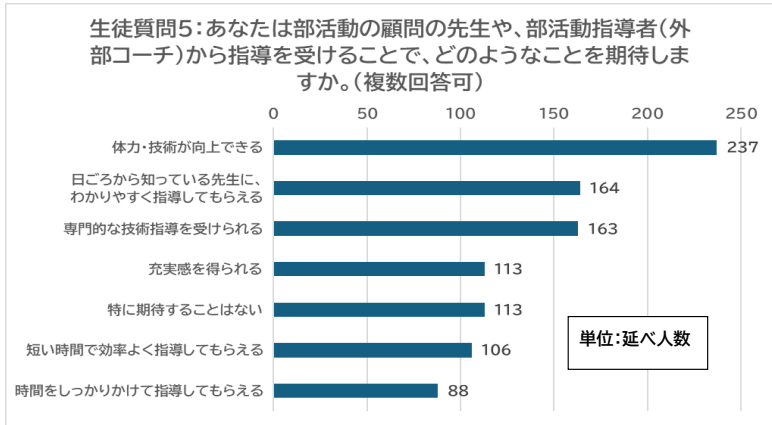
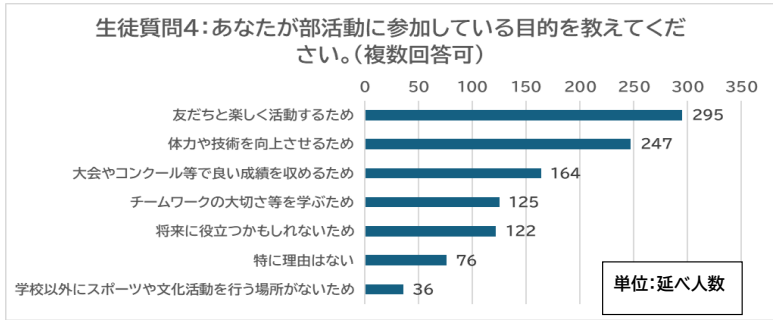
指導者に期待することとしては「体力や技術が向上できる」「日ごろから知っている先生にわかりやすく指導してもらえる」「専門的な技術指導を受けられる」が上位であり、よく知った指導者による指導を望む声が一定あることがわかる(生徒質問5)。

今後地域のクラブ活動への参加意向については、およそ6割が何らかの形で参加したいと肯定的に捉えているが、否定的に考える生徒も多い(生徒質問8)。

今後地域のクラブ活動で望ましい指導者については、中学校の先生を望む声が全体の約33%であった(生徒質問9)。

以上のことから、

- ・部活動には「楽しむため」「体力・技術の向上のため」に参加している。
- ・中学校の教職員を例とする、すでに顔なじみのある指導者を求める声が多い。
- ・地域のクラブ活動を望む声はあるが、学校外や休日の活動に対する否定的な意見もある。



(2) 教職員の部活動に関する意識等

部活動業務を負担に感じている教職員は全体の約67%である(教職員質問12)。

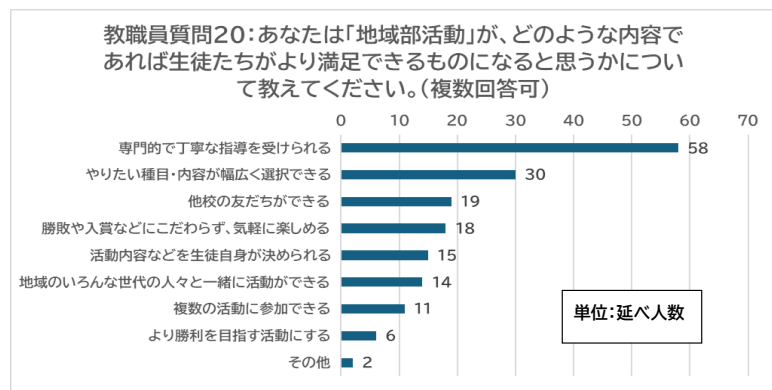
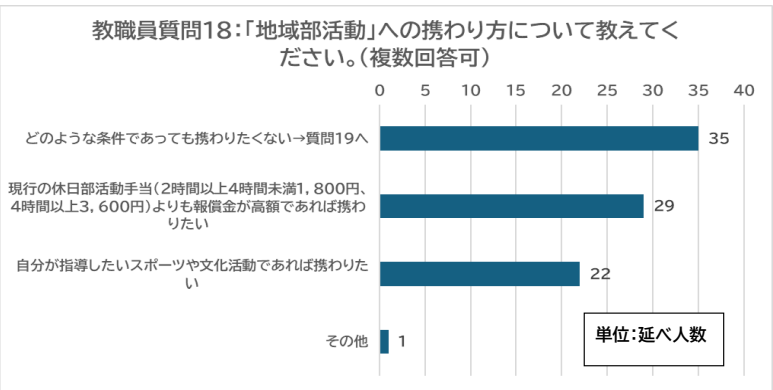
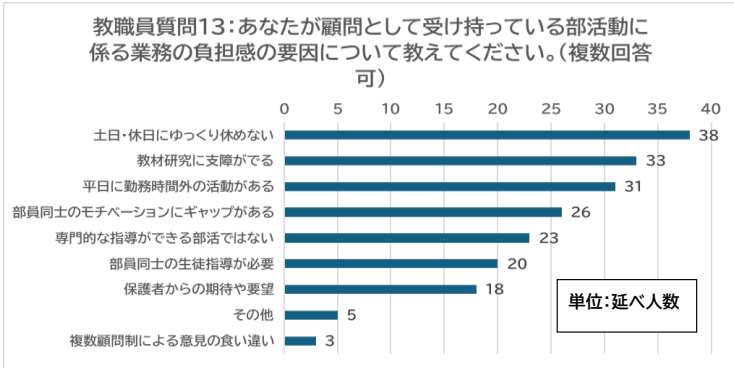
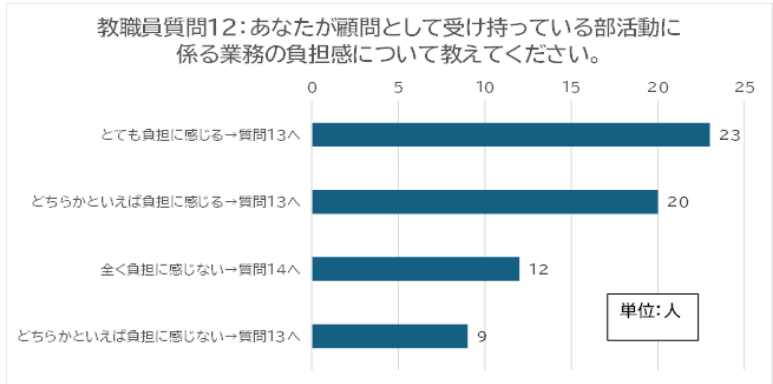
負担感の原因としては「土日・休日にゆっくり休めない」「教材研究に支障がでる」「平日に勤務時間外の活動がある」が上位に挙げられ、全体の約51%を占める(教職員質問13)。

今後地域部活動への移行が行われた際の関わり方としては、「どのような条件であっても関わりたくない」との回答が全体の約40%であった(教職員質問18)。

地域部活動がどのようなものであれば生徒は満足するか、との問いに対しては、「専門的で丁寧な指導が受けられる」が全体の約33%であった(教職員質問20)。

以上のことから、

- ・部活動指導への負担感を覚える教職員は無視できない数であり、部活動指導の負担により休息や教材研究等に支障が出るなど、本来業務に支障が出ている。
- ・地域部活動への携わり方については、しっかりとした手当や教職員が指導する分野を選択できる等の制度整備が必要。
- ・生徒と教職員の地域部活動に対する意見のすり合わせが必要。



③ 保護者の部活動に関する意識等

部活動に期待することとして、「先輩や後輩との交流ができること」「技術や体力の向上」が挙げられており、この二つで全体の約26％であった(保護者質問4)。

部活動に子どもが満足しているかについては「課題や不満がない」が全体の約21％であったものの、次いで「活動時間が短すぎる」「専門的な指導が受けられない」が挙げられている(保護者質問6)。

今後地域部活動が開始された場合に、何らかの形で参加させたいと回答したのは全体の約86％であった(保護者質問10)。

今後地域部活動の指導者としてどのような人材が望ましいかについては、「専門的な技能や知識を持った指導者」が全体の約39％であった(保護者質問11)。

以上のことから、

- ・保護者と生徒の現在の部活動に対するニーズはほぼ同じである。
- ・現在の部活動に対する満足度は高い。
- ・今後地域部活動が開始された場合も、何らかの形で生徒を参加させたいとの声や、指導者として専門的な技能や知識を持った者を求める声が多い。

3 まとめ

お忙しいところ、本調査にご協力いただいた生徒、教職員、保護者の皆様、誠にありがとうございました。

国は令和7年度までを部活動の「改革推進期間」と位置付け、今までの部活動に対する課題の洗い出しや、課題解決策の検討及び試行を行ったうえで、令和8年度以降は「地域クラブ活動の充実」を進める方向性を示しています。

本町でも、今回のアンケート結果を元に、「生徒の自主的・自発的な参加で行われる部活動」の実現に向け、どのような方向性が望ましいかを検討してまいります。

